



■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	会議開催数	回		目標	2	2	2
				実績	2	2	
成果指標	運営方針の審議・作成	回		目標	1	1	1
				実績	1	1	

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】□

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

諮問案件の審議だけでなく、有識者の幅広い意見を運営に反映させる貴重な機会である。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】□

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

年2回の開催予定であり、意見を早急に求めたい場合に対応が難しく、定期的な報告に陥りやすい。

■課題と対応方針

課題	定例的な会議となることから、形骸化する恐れがある。
次年度における対応方針(改善方針)	形骸化にならないよう、運営方針から事業内容面まで、あらゆる面から協議検討をしていく。また、公民館運営審議会に、事業仕分けを受けての市の方針「中学校区毎に地区公民館を配置(位置づけ)し、事業を展開する。」についての答申を得る。
中長期的な視点での対応方針(改善方針)	公民館運営方針や事業内容面、ハード面(霞ヶ浦公民館施設の利用目的別部屋の設置等)について、他市町村等との比較、検討を行うなど大局的見地からも調査研究を行いたい。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課長 中泉栄一 担当課名 霞ヶ浦公民館
事業の方向性	<input type="radio"/> このまま継続 <input checked="" type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止( 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	公民館運営審議会からの答申「各中学校区毎に地区公民館を組織して、事業を展開することが適正であると考え。」に基づき進めていく。

二次評価【部長評価】

部長名	小松塚隆雄	担当部名	教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認		
	地域の特性や課題を踏まえ、時代に即した公民館活動を審議いただくよう、事務局として運営に取り組んでください。		



■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	管理施設数	箇所	維持管理作業を行う施設の数	目標	5	5	5
				実績	5	5	
成果指標	公民館利用者数	人	公民館利用者の合計	目標	10,000	8,000	8,000
				実績	6,357	6,296	
	利用団体数	回	公民館利用団体の数	目標	80	80	80
				実績	85	79	

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】□

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

地区公民館の管理施設は5箇所だが、地域振興・レクリエーション・精神的充足・緊急的な避難先など様々な機能を備えており、利用者(市民)にとって重要な役割を担っている。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

下大津・志土庫第1・志土庫第2地区公民館は、老朽化により不安な状況の箇所も見受けられ、安全面からも今後の修繕に課題が残る。

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】□

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

委託料等コスト面で引き続き努力している。管理方法については、市で設置管理する公民館施設を今後、地区民が参画する維持管理に移行することも検討課題である。

■課題と対応方策

課題	地区公民館については施設の老朽化が進み、修繕の必要がある箇所が多く見受けられるが、地区公民館の統廃合の問題もあり、施設の存続が見えてこないことから、必要最小限の修繕にとどめている。
次年度における対応方策(改善方策)	地区公民館施設の修繕については、予算上厳しい状況ではあるが、地域住民が安全・安心に利用できるよう、危険性がある箇所は迅速に対応する。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	地区公民館は公民館のみならず、投票所や避難場所など、様々な役割を担っていることもあり、関係部署、関係者、地域住民等で、横断的に公民館に限定しない形での建物の存続の是非について協議する。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課 中泉栄一 担当課名 霞ヶ浦公民館
事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止( 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	事業仕分けを受けての、市の方針「中学校区毎に公民館を配置し、事業を展開する。」に向けて調整を進める。

二次評価【部長評価】	
部長名	小松塚隆雄 担当部名 教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認
	規模拡大に伴うメリットが生かせるよう、地域の話し合いの機会を十分に確保して理解を得られるよう取り組んでください。

※事務事業コード／ 0110040204

平成 26 年度 事務事業シート

部署名	部 教育委員会	課 霞ヶ浦公民館	事業年度期限	●無 ○有 (平成 年度～平成 年度)		
会計	一般会計	款・項・目 100402公民館費	新規／継続 (事業区分1)	継続	市民協働	共催
事業名	04公民館活動推進事業		総合計画コード	3215		
目的 (成果)	幼児から老人まで幅広い年齢層の住民が交流・参加できる身近な事業を提供することで、地域住民と協力しながら学習や意識の啓発を行い、親睦と融和を進め、更には地域振興を図ることを目的とする。					
内容 (概要)	各種事業を設定して、老若男女・年代間の参加を促し、或いは(直接参加できなくても)地域住民である意識・誇りを啓発し、住民活動を活性化して行く。					

■事業費 (単位:円)

	平成24年度 決算			平成25年度 決算			平成26年度 予算			
事業内容	下大津・美並・牛渡・佐賀・安飾・志士庫の各地区において、合同運動会、体育祭、球技大会、移動講座、ハイキング、地域産業体験事業、各種講座等を実施した。			下大津・美並・牛渡・佐賀・安飾・志士庫の各地区において、合同運動会、体育祭、球技大会、移動講座、ハイキング、各種講座等を実施した。			下大津・美並・牛渡・佐賀・安飾・志士庫の各地区において、合同運動会、体育祭、球技大会、移動講座、ハイキング、各種講座を実施する。			
財源内訳	国庫支出金			国庫支出金			国庫支出金			
	県支出金			県支出金			県支出金			
	市債			市債			市債			
	その他			その他			その他			
	一般財源	8,450,018		一般財源	6,574,075		一般財源	6,788,000		
計	8,450,018		計	6,574,075		計	6,788,000			
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分
	01	報酬	2,783,900	01	報酬	2,813,000	01	報酬	2,827,000	
	07	賃金	1,980,000	08	報償費	1,496,425	08	報償費	1,487,000	
	08	報償費	1,463,256	09	旅費	24,000	09	旅費	87,000	
	09	旅費	19,000	11	需用費	819,750	11	需用費	745,000	
	11	需用費	761,962	12	役務費	289,000	12	役務費	289,000	
	12	役務費	289,000	14	使用料及び賃借料	1,131,900	14	使用料及び賃借料	1,339,000	
	14	使用料及び賃借料	1,152,900				19	負担金、補助及び交付金	14,000	
		決算額計	8,450,018		決算額計	6,574,075		予算現額計	6,788,000	0
(参考)	H24当初予算額	8,691,000		H25当初予算額	6,843,000		伸び率(%) 対・決	3.3	対・予	-0.8
人件費	職員人件費 1.50 人工	12,103,000		職員人件費 1.50 人工	12,089,000		職員人件費 0.90 人工		6,941,000	
総事業費	歳出+職員人件費	20,553,018		歳出+職員人件費	18,663,075		歳出+職員人件費		13,729,000	

【特記事項】
○25年度主な支出
地区公民館役職員報酬
2,813,000円
体育祭、球技大会記念品、賞品
1,274,925円
ハイキング、移動講座バス借上料
1,062,600円
【各地区公民館事業実績】
・球技大会(ソフトボール・バレーボール)74チーム、809人
・体育祭約3200人
・ハイキング497人、バス14台
・移動講座400人、バス11台
・歩く会175人、
・安飾まつり200人
・ならせ餅を作ろう講座30人

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	事業実施数	事業	実施地区公民館数	目標	6	6	6
				実績	6	6	
成果指標	年間参加者総数	人	延べ人数	目標	7,000	7,000	6,000
				実績	6,846	5,311	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】□

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

共同体意識が希薄化している社会情勢にあつて、かえつて、地域意識を啓発してゆく意義は貴重性を増している。学習・レクリエーションのレベルにとどまらず、共同作業や活動を通し住民意識を広め、伝えてゆく継続性が重要とされる。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

参加人数は、各事業延べ年間約5,500人ほどにも及ぶ地域住民の参加があり、多くの事業を行い地域の活性化と融和に貢献ができたと思われる。

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】□

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

球技大会や歩く会に参加者が少ない地区もあるため、地区役職員からの声掛け方法、チラシの周知方法等に工夫を要する。

■課題と対応方策

課題	地区公民館の統廃合及び適正配置について、地区公民館役員をはじめとする地区住民に理解してもらう必要がある。
次年度における対応方策(改善方策)	地区公民館の役職員で構成する「地区公民館の統廃合に関する検討委員会」において、地区公民館の統廃合及び適正配置について協議を重ね、その方向性を打ち出す。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	地区公民館統廃合後の地区公民館活動について前向きに検討し、新しい形の地区公民館活動を展開していく。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】

評価者 生涯学習課 中泉栄一 担当課名 霞ヶ浦公民館

事業の方向性  このまま継続  改善して継続  休廃止( 年後を目処)  終了

事業費の方向性  増額  現状維持  減額

次年度の取組方針(改善方針) 施設としての地区公民館と組織・コミュニティとしての地区公民館を別に考え、今後の方向性について検討を進める。

二次評価【部長評価】

部長名 小松塚隆雄 担当部名 教育委員会

確認  確認

地域の特性や課題を踏まえ、時代に即した公民館活動が推進できるよう事務局として取り組んでください。

※事務事業コード／ 0110040205

平成 26 年度 事務事業シート

部署名	部 教育委員会	課 霞ヶ浦公民館	事業年度期限	●無 ○有 (平成 年度～平成 年度)				
会計	一般会計	款・項・目 100402公民館費	新規／継続 (事業区分1)	継続	市民協働	行政の関与	総合計画コード	3215
事業名	05霞ヶ浦公民館運営事業							
目的 (成果)	自ら学習活動に参加し、その中で学ぶ楽しさや喜びを感じながら自己実現を図ることができ、生涯学習としてとらえた講座を計画する。							
内容 (概要)	教養の向上等を図り生活文化の振興福利の増進に寄与するため、老若男女あらゆる世代のニーズに対応できる講座を計画実施する。							

■事業費 (単位:円)

	平成24年度 決算			平成25年度 決算			平成26年度 予算			
事業内容	IT・アロマセラピー・絵画・韓国語・料理講習会等の講座を開催した。			IT・絵画・庭木・健康・おせち料理・お菓子づくり等の講座を開催した。			教育、学術及び文化に関する各種事業を実施する。			
財源内訳	国庫支出金			国庫支出金			国庫支出金			
	県支出金			県支出金			県支出金			
	市債			市債			市債			
	その他			その他			その他	277,000		
	一般財源	1,498,279		一般財源	1,443,665		一般財源	526,000		
計	1,498,279		計	1,443,665		計	803,000			
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分
	08	報償費	333,000	08	報償費	291,500	08	報償費	342,000	
	09	旅費	1,000	11	需用費	560,736	11	需用費	357,000	
	11	需用費	481,657	12	役務費	47,720	12	役務費	47,000	
	12	役務費	37,250	14	使用料及び賃借料	482,059	14	使用料及び賃借料	14,000	
	14	使用料及び賃借料	573,672	19	負担金、補助及び交付金	41,650	19	負担金、補助及び交付金	43,000	
	19	負担金、補助及び交付金	41,700	27	公課費	20,000				
	27	公課費	30,000							
		決算額計	1,498,279		決算額計	1,443,665		予算現額計	803,000	0
(参考)	H24当初予算額	1,614,000		H25当初予算額	1,626,000		伸び率(%) 対・決	-44.4	対・予	-50.6
人件費	職員人件費 0.50 人工	4,034,000		職員人件費 0.50 人工	4,029,000		職員人件費 0.50 人工		3,856,000	
総事業費	歳出+職員人件費	5,532,279		歳出+職員人件費	5,472,665		歳出+職員人件費		4,659,000	

【特記事項】

○25年度主な支出  
映画フィルム借上げ料469,087円  
講座・教室講師謝礼 291,500円

【事業実績】

映画上映会:3日7作品  
延べ606人 受講率87%  
※25年度で事業終了  
前期講座:5講座(85人)  
延べ296人、受講率77%  
後期講座:6講座(85人)  
延べ241人、受講率71%

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	講座の開設	件	講座の開設数	目標	11	10	10
				実績	11	11	
成果指標	講座の年間受講率	%	講座の募集定員に対する受講者の割合	目標	80	80	80
				実績	74	74	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

新規講座の導入、講師の発掘等を図り、市民ニーズに適した講座を実施できた。

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

市民ニーズや時代性等の把握により、更なる目標達成に努めたい。

■課題と対応方策

課題	講座運営等の事業以外にも多くの対応を霞ヶ浦公民館事業が内包しているため、それぞれの事業総量に比較し職員数が少ない。他事業とのバランスで、講座設定時期が偏る傾向がある。事業費の制約がある。
次年度における対応方策(改善方策)	講座の数を減らし、1講座の回数を増やし内容を充実させる。新規講座を企画し、公民館施設等を多目的に活用する。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	講座修了生の同好会結成や後進指導など、アフターフォロー、活動支援を行っていく。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課 中泉栄一 担当課名 霞ヶ浦公民館
事業の方向性	<input type="radio"/> このまま継続 <input checked="" type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止( 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	各文化団体等の会員の高齢化が進み、社会教育施設利用者数が減少していることもあり、新しい同好会やサークル等が結成されるような講座の企画や講座受講生への働きかけをお願いしたい。

二次評価【部長評価】

部長名	小松塚隆雄	担当部名	教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認		
	地域の特性や課題を踏まえ、時代に即した公民館活動が推進できるよう事務局として取り組んでください。		



※事務事業コード／ 0110040208

平成 26 年度 事務事業シート

部署名	部 教育委員会	課 霞ヶ浦公民館	事業年度期限	●無 ○有 (平成 年度～平成 年度)			
会計	一般会計	款・項・目 100402公民館費	新規／継続 (事業区分1)	継続	市民協働	市民主体	総合計画コード 3215
事業名	08集落センター連絡協議会運営事業						
目的 (成果)	地域作り研修会及び料理講習会等により、集落センターの円滑な運営を期する。また、地域振興促進など活力ある地域づくりに寄与する。						
内容 (概要)	集落センターの円滑な運営を図るため、集落の相互連絡、情報交換を行い、生活環境の改善に資する事業を行う。						

■事業費 (単位:円)

	平成24年度 決算			平成25年度 決算			平成26年度 予算			
事業内容	環境美化運動、料理講習会、地域活性化促進事業、視察研修を行った。			環境美化運動、料理講習会、地域活性化促進事業、視察研修を行った。			環境美化運動、料理講習会、地域活性化促進事業、視察研修を行う。			
財源内訳	国庫支出金			国庫支出金			国庫支出金			
	県支出金			県支出金			県支出金			
	市債			市債			市債			
	その他			その他			その他			
	一般財源	90,000		一般財源	90,000		一般財源	91,000		
計	90,000		計	90,000		計	91,000			
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分
	19	負担金、補助及び交付金	90,000	19	負担金、補助及び交付金	90,000	09	旅費	1,000	
							19	負担金、補助及び交付金	90,000	
	決算額計		90,000	決算額計		90,000	予算現額計		91,000	0
(参考)	H24当初予算額		90,000	H25当初予算額		90,000	伸び率(%) 対・決	1.1	対・予	1.1 +
人件費	職員人件費	0.30 人工	2,420,000	職員人件費	0.30 人工	2,417,000	職員人件費	0.30 人工	2,313,000	
総事業費	歳出+職員人件費		2,510,000	歳出+職員人件費		2,507,000	歳出+職員人件費		2,404,000	

【特記事項】

○25年度主な支出  
集落センター連絡協議会補助金  
90,000円

【事業実績】  
・環境美化運動(草花苗配布)  
前期=10集落、後期=9集落  
・地域活性化事業(映画試写会、映画会)  
試写会=28人、東野寺=62人、  
外葉=40人  
・視察研修会(埼玉県草加市)29人  
・女性部料理講習会(洋食料理作り あじさい館にて)31人

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	地域活性化促進事業数	回	事業の普及数	目標	2	2	2
				実績	1	3	
成果指標	料理講習会実施数	事業	事業の実施数	目標	1	1	1
				実績	1	1	
成果指標	料理講習会参加者数	人	参加者数	目標	24	24	24
				実績	20	31	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

**必要性の点検**

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】□

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

地域単位の活動支援だけでなく、近年重視される「ふるさと」意識の啓発と地域づくりを目指す土壌作りを志向し活動を活性化させ、併せて合併後の地域交流、相互理解も狙い運営してい

**目標達成状況の点検**

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

既存事業の再構築と目標の明確化・周知などの努力により、参加者の支持を得、新規事業の立ち上げ継続など、目標内容を達成してきた。

**実施内容・方法の点検**

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】□

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

県組織が解散したことから、推進体制の弱体化が危惧されている。市長部局との連携を再構築する必要が生じている。

■課題と対応方策

課題	まちづくり、地域おこしの一環として運営してきた。事業数と内容、参加者数と意識、いずれも上向傾向である。県組織が22年度末で解散し、県の事業に替わる新規事業を検討している。
次年度における対応方策(改善方策)	人気のある事業や新規事業を展開しながら、事業内容の実情把握に努める。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	個々の集落で地域意識を高めていき、全市的に参加を促し、意識(学習)面から産業経(実利)面へと発展させる。県の組織が解散したことから、今後の在り方(解散)についても検討していく。

■今後の方向性

**一次評価【課長評価】**

評価者: 生涯学習課 中泉栄一    担当課名: 霞ヶ浦公民館

事業の方向性:  このまま継続     改善して継続     休廃止( 年後を目処)     終了

事業費の方向性:  増額     現状維持     減額

次年度の取組方針(改善方針): 映画会、視察研修、料理講習会など、公民館事業と重複しているような事業であることから、その差別化や、逆に公民館事業への統合について検討する。

**二次評価【部長評価】**

部長名: 小松塚隆雄    担当部名: 教育委員会

確認:  確認

まちづくりを基軸とする点では、公民館活動と共通していることから、相乗効果が上げられるような体制を検討してください。

※事務事業コード／ 0110040209

平成 26 年度 事務事業シート

部署名	部 教育委員会	課 霞ヶ浦公民館	事業年度期限	<input checked="" type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有 (平成 年度～平成 年度)
会計	一般会計	款・項・目 100402公民館費	新規／継続 (事業区分1)	<input type="radio"/> 継続	<input type="radio"/> 市民協働
事業名	09新生活運動推進協議会運営事業		共催	総合計画コード 3215	
目的 (成果)	新生活運動を推進することにより、生活の合理化と充実を図る。生活環境等を調査検討することで、住民の生活意識高揚を期する。				
内容 (概要)	運動の趣旨を啓蒙するチラシの作成・配布。花輪ポスターの印刷・活用。運動普及への研究、事例調査等を行う。				

■事業費 (単位:円)

	平成24年度 決算		平成25年度 決算		平成26年度 予算			
事業内容	啓蒙チラシの配布。花輪ポスターの印刷。運動普及への調査研究。		啓蒙チラシの配布。花輪ポスターの印刷。運動普及への調査研究。		啓蒙チラシの配布。花輪ポスターの印刷。運動普及への調査研究。			
財源内訳	国庫支出金		国庫支出金		国庫支出金			
	県支出金		県支出金		県支出金			
	市債		市債		市債			
	その他		その他		その他			
	一般財源	141,026	一般財源	114,870	一般財源	114,000		
計	141,026	計	114,870	計	114,000			
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分	
	11	需用費	97,650	11	需用費	75,600	69,000	
	19	負担金、補助及び交付金	43,376	19	負担金、補助及び交付金	39,270	45,000	
	決算額計	141,026	決算額計	114,870	予算現額計	114,000	0	
(参考)	H24当初予算額	144,000	H25当初予算額	144,000	伸び率(%) 対・決	-0.8	対・予	-20.8
人件費	職員人件費 0.30 人工	2,420,000	職員人件費 0.30 人工	2,417,000	職員人件費 0.20 人工		1,542,000	
総事業費	歳出+職員人件費	2,561,026	歳出+職員人件費	2,531,870	歳出+職員人件費		1,656,000	

【特記事項】	
○25年度主な支出	
印刷製本費(葬祭用ポスター)	75,600円
補助金	39,270円

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	会議開催数	回	協議会の役員会、理事会等	目標	3	3	3
				実績	5	3	
成果指標	葬祭ポスターの利用枚数	枚	花輪の代わりに葬祭ポスターを利用してもらい、生活の合理化を図る。	目標	2,000	2,000	1,000
				実績	1,300	685	
成果指標	組合員の加入募集実施	回	火災見舞基金組合啓発チラシを配布し、新規組合員の加入募集を図る。	目標	1	1	1
				実績	1	1	

■事務事業の点検

**必要性の点検**

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】□

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

任意団体ではあっても、旧出島村時代に区長会を中心に結成されており、団体の利益を目指すものでなく、市政の補助、或いは公益活動の性格を内包する。

**目標達成状況の点検**

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】□

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

**実施内容・方法の点検**

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】□

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

個人の生活様式・価値観は多様化し、地域での啓蒙に難しい問題がある。先進地が極めて少ないため、活動方針や手法の調査・整理見直しに継続的に時間を要す。

■課題と対応方策

課題	まちづくりの一環として運営している。生活水準の向上、生活様式の変化などで、社会的な要求は変遷している。
次年度における対応方策(改善方策)	周知・啓蒙を継続することが重要であり、優良事例の発掘や、チラシの作成・配布等で活動を継続しつつ、調査検討する。また、
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	生活の多様化、特に個人意識を重視して活動手法を整理検討し、各種の啓蒙機会の性格ごとに手法を用意し、きめ細かな対応をしてゆく。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課長 中泉栄一 担当課名 霞ヶ浦公民館
事業の方向性	<input type="radio"/> このまま継続 <input checked="" type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止( 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	事業の必要性及び公民館で担当することの適正について検討する。

二次評価【部長評価】

部長名	小松塚隆雄	担当部名	教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認		
	虚礼廃止など、本運動が生活の簡素化に果たしてきた役目は大きい。現在の社会情勢の中での必要性について検討が必要です。		